

2019年Sセメ キャンパスアジア 報告書

法学部3年

佐倉 北



1. 前書き

この報告書を作成するにあたって、僕は特定のいくつかの分野に集中して記述するのではなく、総合的に捉えて書いていくと志した。中国留学で学んだこ

と感じたことだけではなく、これから中国へ留学される人たちのために参考となるような知見もたくさん盛り込んだ。また僕は難しい言葉を使うことが苦手であり、好きでもない。そのため、この報告書も平易な言葉でわかりやすく書いていく。この留学を通して得られた学術的知見、中国社会への理解、人々の生活におけるまなざし、中国政治に対する新発見と再確認、日常生活に欠かせない人脈など、これらはもちろん大切な事柄であるが、この報告書の重点ではないためやや割愛して書いていく。この半年間の生活を全般的に振り返りながら、特に強調したい点を重点的に書き、これから留学する者へのメッセージを記しておく。

2. 授業

北京大学の授業は大変面白く、学ぶことが多かった。珍しいかもしれないが、僕は英語よりも中国語の方が得意だったため、中国語の授業をメインに取った。しかし、苦手な英語から逃げることも嫌だったので、1科目だけ英語の授業を取った。また北京大学のみならず、中国の大学全般は、いわゆる「潜り」に対して寛容である。それどころか、大学側は大歓迎という雰囲気であると感じられた。そもそも「潜り」は中国語で言うと“旁听”であり、日本語に直訳すると「傍で聞く」という意味である。つまり、日本語の「潜り」にはけな

す意味合いがあるが、中国語の“旁听”は中立的な意味合いである。大学側が学生の知的好奇心をよく評価しているのがわかる。僕が今学期履修した科目は7科目であるが、潜りも含めると最終的には9科目を取っていた。また自由に潜りができたため、短期の潜りも含めると一時期は週に15科目を受けていた。

ちなみに僕は小さい頃、中国で3年間暮らしたことがあり、その間は現地の小学校に通っていたので留学する前から中国語の基礎はすでにできていた。東大の入試も中国語で受験し、入学後もインタークラスに入って既修中国語を取っていた。そのため、留学するにあたって言語面の不安は特になかった。実際、授業もほとんど聞き取れた。よって授業も中国語の授業をメインに取った。

以下、最終的に取っていた9科目（潜りも含めて）紹介する。

① 爱的心理学/月5・6/中国語/面白さ★★☆☆☆/わかりやすさ★☆☆☆☆/

言語の面の易しさ★★★☆☆/70人程度/心理学部

愛について心理学的観点から分析した授業。名前の面白さから取った。恋愛に興味があったという下心ももちろんあった。しかし授業では恋愛についてあまり触れてくれなかった。かなり真面目な内容で、学術的に愛を分析した。ところが、途中から先生が「スライドは英語なのに先生は中国語で話す」という謎

の授業スタイルを展開したため、授業もだんだんとわかりにくくなり、この授業取らなければよかったと若干後悔した。先生に WeChat 既読無視された。

② 中国政治与公共政策/月 7・8・9/英語/面白さ★★★★★/わかりやすさ★

★★★★☆/言語の面の易しさ★★☆☆☆（これはおそらく個人的問題）/40

人程度/国際関係学院

かなり面白くてとてもためになった授業。留学生が大半を占めた。英語をペラペラに話す帰国子女がゴロゴロいた。肩身狭かった。でも授業はとてもよかった。先生はアメリカの大学院で学んだ経験があり、中国社会・政治に対する理解が深かった。外国人目線で中国社会・政治について語ってくれたため、とてもわかりやすかった。また中国では絶対的なタブーとされている天安門事件についても詳しく教えてくれた。

③ 自杀社会问题研究/月 10・11/中国語/面白さ★★★★★/わかりやすさ★★

★★★★/言語の面の易しさ★★★★★/70 人程度/社会学部

自殺学に関する授業。まず自殺を扱う授業があることに驚いた。少なくとも東大では聞いたことない。日本では自殺を授業で扱うことはタブー視されているような気がするが、北京大学はやっぱ違う。授業では自殺がなぜ起こるのか、

その社会的背景、予防策と事後対応策など総合的に教えてくれた。この授業に
出会えただけでも北京大学に来た甲斐があった、と思えるほどいい授業だっ
た。



↑授業中にほろ酔いを飲む隣の学生

④ 青少年心理访谈：理论，技术和案例讨论/火5・6/中国語/面白さ★★★★★
★/わかりやすさ★★★★★/言語の面の易しさ★★★★★/150人程度/心
理学部

青少年の心理問題について、心理カウンセリングの観点から分析した授業。先
生は心理カウンセリングの資格を持っているので、本人の視点や経験も交えて

話してくれた。でもテーマがテーマなだけに、おばさんがめちゃくちゃ多かった。とにかく多かった。そのほとんどが潜りである。そして毎回、おばさんたちの席の争奪戦だった。

⑤ 心理学概论/火 10・11/中国語/面白さ★★★★★/わかりやすさ★★★★★
/言語の面の易しさ★★★★★/潜り/200人程度/心理学部

駒場で取った心理 I と内容がとても似ていた。そのため、心理学の基礎のいい復習になり、同時に「なるほど、日本語のこの効果名は中国語ではこう言うのか！」と、中国語の勉強にもなった。もちろん新しく学べたこともたくさんあった。

⑥ 犯罪学/月 5・6/中国語/面白さ★★★★☆/わかりやすさ★★★☆☆/言語
の面の易しさ★★★★☆☆/200人程度/法学院

東大法学部にはまずない、犯罪学を扱う授業。初めて知った学問なので学ぶことがすべて新鮮だった。今までは犯罪を法律の面からしか勉強してこなかったが、これは犯罪を現象として分析した授業だった。そこには心理学、社会学、脳科学など様々な学問が複合的に関係していた。女子率がめちゃくちゃ高かった。また先生はどうやら有名人だったみたいでその崇拜者がたくさん受講して

いた。先生が過去の栄光を話すと途端に拍手が沸き起こったり、授業後には20人くらいの学生が先生を囲い込んだり、最終回の授業が終わるとツーショット写真を求める学生さえいた。普通に引いた。

⑦ 中国概況/水5・6/中国語/面白さ★★★★☆/わかりやすさ★★★★★/言語の面の易しさ★★★★★/6人/対外漢語教学中心

留学生のための授業。先生が癖のあるおばさん。中国の歴史、地理、社会、民族、教育など様々な分野について詳しく教えてくれた。若干特定の分野に「偏りすぎじゃね?」と思うこともあったが、いい授業だった。留学生のための授業なので、先生は平易な言葉でわかりやすく教えてくれた。中間試験としてプレゼンテーションがあり、僕は「日中のお笑い」についてプレゼンした。あと台湾から来た留学生にめっちゃ美人な子おった。結局最後まで話しかけられなかった。



↑中間試験でプレゼンをする佐倉君

⑧ 生活中的心理学/木5・6/中国語/面白さ★★★★★/わかりやすさ★★★★★

★/言語の面の易しさ★★★★★/潜り/40人程度/心理学部

日常生活に根を下ろした心理学が主旨であるため、他の心理学の領域よりも身近な内容である。自信の持ち方、コミュニケーションの仕方、恋愛、性心理、自殺など、誰もが興味を持つようなテーマを扱った。留学生の多い授業のため、先生は平易な言葉でわかりやすく教えてくれた。先生は学生に積極的に発言を促していたため、教師と学生の双方向のやり取りが頻繁に行われ、とても活気があった。(東大法学部にも見習いたいものです…)。最初から履修すればよかったと悔やんだ。

⑨ 高級汉语口语(下)/木7・8/中国語/面白さ★★★★★/わかりやすさ★★★

★★★/言語の面の易しさ★★★★★/20人程度/中国言語文学部

学生全員が留学生で、主に中国語のスピーキング能力を鍛える授業。学生たちの出身国・地域は主に韓国、日本、香港、タイ、マレーシア、ブラジル、ロシア、新疆だった。正確で高度な中国語を教えることが主旨の授業なので、先生は完璧と言えるほどのきれいな標準語を話し、言葉遣いも丁寧でわかりやすか

った。間違いなくこの授業で一番中国語の実力が伸びた。すべての学生が高い中国語能力を持っていたため、最初はついていくのが大変だった。特に討論の回ときは他の学生に圧倒されてほとんど発言できなかった。そして最も悔しい思いをしたのは即興スピーチの回だった。その場でテーマを与えられて10分間の準備時間後にスピーチを行うものだったが、準備時間の間は何を話せばいいのかまったく思い浮かばず、やっとのことでスピーチを行っても言いたいことが良くまとまらず、あたふたしたまま終わってしまった。自分の伝えたい思いが誤って伝わってしまったこともあり、先生には詰めの甘さを指摘された。それまでの自信が一気に崩れたように感じ、今までに味わったことのない悔しさと自分への憤りでしばらく我を忘れるほどだった。一方で、大きな達成感を感じた瞬間もあった。それはディベートの回でした。肯定側と否定側に分かれてある議題に関してディベートを行い、最終的に審査員が勝敗をジャッジするものだった。ディベートに臨むにあたって、ただ自分の意見を主張するだけでは中国語の能力差でボコボコにされてしまうと思った。だが幸い、過去に東大の弁論部というサークルに所属していたことがあり、そこでディベートの経験を積んでいたためにディベートのテクニックを駆使すれば勝てるのではないかと思った。いざ始まると議論は白熱し、僕はなんとか自分の意見を明確に、かつ端的に話し、相手の主張の問題点を見つけ出して徹底的に攻撃した。

ディベート後は先生や他の学生からも称賛をいただき、この授業で最も胸が熱くなった思い出となった。



↑ディベートで主張を行う佐倉君

3. 人との出会い

留学すれば当然のようにたくさんの人たちと出会い、たくさんの絆を深めることになる。現地の中国人学生だけではなく、他の国から来た留学生や同じ日本からの留学生とも多く知り合える。一方で、**留学開始2週間で食堂にて美女学生に声をかけられて WeChat の連絡先を聞かれる**なんていう奇跡も起こるはずもなく、寂しい思いをすることも多々あった。その中には多くの印象的な思い出があり、留学における大きな宝物となったことは間違いない。

●サークル

まずはサークルにおける多くの出会い。僕は今学期主に二つのサークルに参加した。一つは茶学会であり、中国茶を飲んでその奥深さを楽しむ活動である。一見地味な活動に見えるが、中国の様々なご当地のお茶を、そのお茶の詳しい紹介を聞きながら味わうことができ、とてもゆったりとした気分になった。またお茶を飲みながらそこで出会った人たちと自由におしゃべりをし、話題は中国の政治や社会まで膨らんだ。非常に有意義な時間を過ごしたので引き続き来学期からも参加したい。

そしてもう一つのサークルが AFPLA である。北京大学だけでなく、東京大学、復旦大学、国立台湾大学、ソウル国立大学から、毎年夏に学生たちが集まって東アジアの政治や社会などの議題について議論するフォーラムを開催する団体である。僕はこのフォーラムを開催するスタッフとしてではなく、参加者としてこのサークルに入った。意外なことに、なぜか北京大学側の参加者として参加することになった。このフォーラムにおいては英語を用いて議論するので、苦手な英語を克服するために参加が決定した4ヶ月前から毎日一生懸命英語を勉強した。

8月上旬、6日間行われるフォーラムが開催された。5カ国の学生がここ北京に一堂に会し、それぞれ意見を主張して熱い議論を交わした。会議の他にも観光ツアーやディナーなどを通じて、他国の学生たちと親密に交流し、大いに

仲を深めた。自分の英語力がまだまだ至らなかったこともあって、会議中は黙
り込んだり消極的になったりすることもあった。その点は大変残念に思う。一
方で、未熟な英語力ながらも多くの国の学生たちと交流できたことや多くの友
人ができたことは間違いなくこの夏の一番の素敵な思い出となった。

●日本人留学生

同じ日本人留学生との出会いも思い出となった。日本各地の大学から留学生
が来ていたが、その中で最も多かったのが早稲田大学だった。

また同じ東大からキャンパスアジア・プログラムを通じて来ていた人は、先
学期から来ていた人を含めて5人いた。その5人とはとても仲良くなった、と
思っている。その中には謎に天安門に取り憑かれた人、WeChatのグループチ
ャットでなぜか絶対に返事しない人、10時前に起きたことがないという日本人
先輩留学生、ビールと白酒への知識が日に日に増していく人、好きになった人
に限ってその子に彼氏がいた人、などがいた。まあ、なんやかんや楽しかつ
た。

4. 気候と環境

以前から中国の大気汚染はひどいと聞いていたが、実際本当にその通りだっ

た。加えて北京はとても乾燥していて、特に到着したばかりの冬はあまりに乾燥していたために唇や手の甲の皮膚がとても痛く、何度もハンドクリームを塗らないと乾きが取れないほどだった。また北京は気温が狂ったように激しく変動する。この間まで涼しかったのに急に暑くなった、などといったこともよくある。一日の寒暖差も激しい。朝と夜は外着を羽織らないといけなくらい寒い、昼は汗が出るほど暑くなる。その他にもよくわからない現象があった。

●「ここに四季って概念あるのかしら～消えた春事件～」

僕が北京に到着したばかりの2月はひどく寒かった。わざわざ北京でダウンジャケットを買ったくらい。手袋をつけても指先が痺れて痛かった。その寒さは3月末まで続いた。そしておかしい現象はそこから起こった。4月になって少しずつ暖かくなったかと思えば、だんだんと暑さが増してくる。5月の頭になると最高気温は28度以上になり、外を歩いていると日差しに晒され大汗をかくのである。つまり、僕自身の実感によると、ちょうどよくて過ごしやすい気温だった期間は一瞬だけだった。これが消えた春事件である。少なくとも北京においては冬からそのまま夏に移行したようであり、春が存在しなかったのである。おそらく下半期も夏からそのまま冬に移行し、あるはずの秋はどこかへ消え去るのだろう。

僕はとても不思議に思った。北京にはまるで春と秋の概念が存在しないようだった。少なくとも僕は春を実感することはなかった。

そして暑さはそのまま続き、5月後半になると最高気温は38度にもなった。

●柳絮

さて3月後半になると、突如おかしい現象が起こり始める。空気中に白いふわふわの綿のようなものが飛び散るようになった。僕と他の日本人留学生はこの現象にかなりパニックになったが、現地の人にはそれが見えていないかのようになぜか普段通り過ごしていた。空気中のあちこちに白いふわふわが飛び散るこの現象に対して、僕ともう一人の日本人留学生は「北京中のあちこちで人々が綿の枕をパタパタさせている説」という仮説を立てた。しかし、後になって中国人に話を聞いてみると、これは「柳絮（りゅうじょ）」というものであるらしい。柳絮とはヤナギの実が綿のように飛び散るもので、中国では春の到来を象徴するものとされる。しかし改めて強調するが、春の到来を感じさせる気温は一瞬にして過ぎ去った。そしてこの柳絮の現象はその後1ヶ月ほど続いた。

5. 最強の外売攻略法

外売（ワイマイ）とはいわゆる中国で広く普及している食事のデリバリーシステムである。リーズナブルな値段で短時間で届けてくれる。外売は僕の留学生生活を大いに豊かにしてくれた。学期中は週に最多 15 回、学期が終わって休みになると週に平均で 20 回ほど頼んだ。

そもそも北京大学の食堂はあまり好きではない。確かに格安のお値段で食事ができるが、味もまた格安なのである。決してまずいということではない。中にはうまいご飯ももちろんある。美味しいと思う人もいる。僕のルームメイトはしょっちゅう「食堂うめえよ！うめえよ！」と部屋で叫んでいた。僕は彼のことをおかしな人だと思った。これは言うまでもなく人それぞれの好みだが、僕に言わせると食堂のご飯は概して美味しくない。わざわざ出かけてまで食べに行く気力が起きないのである。それだけでなく、食堂はピークの時間になるとものすごく混み、さらに夜は 19 時で食堂が閉まってしまうのだ。



↑佐倉君が食堂嫌いのきっかけになった食事

週 20 回も外卖を頼んでいると、よほど外卖にお金をつぎ込んでいると思われるが、決してそうではない。そのように思う人は外卖を上手に使えていないのである。上手に賢く使えばとてもリーズナブルな値段になり、外のお店で食べるよりも安くなる。さらに食堂よりも大幅な選択肢があり、好きな時間に寮の下まで届けてくれるのである。では一体、上手な使い方とは何か。ここで最強の外卖攻略法を紹介しておこう。

●割引商品

お店側は外卖での販売を促進するため、ほとんどの店で商品が割引されている。半額か、それ以下の割引の商品もよくあり、実際の店舗で直接買うより外卖で買ったほうが安いといった場合がよくある。「外卖で買うと割高になる」という常識は捨てよう。



↑割引されている商品の数々

●满减割引

もう1つ画期的でお得な割引サービスがある。それが「满减割引」であり、「購入額がある一定額に達すると、一定額の割引が行われる」というものである。自分でも言っていて訳が分からなくなったので具体例を挙げる。例えば、あるお店で「購入額が50元を超えると30元割引される」、さらに「78元を超えると42元割引される」というものである。「満50減30」が「購入額が50元を超えると30元割引される」という意味である。これはかなりお得なので積極的に利用していこう。

●割引トラップ

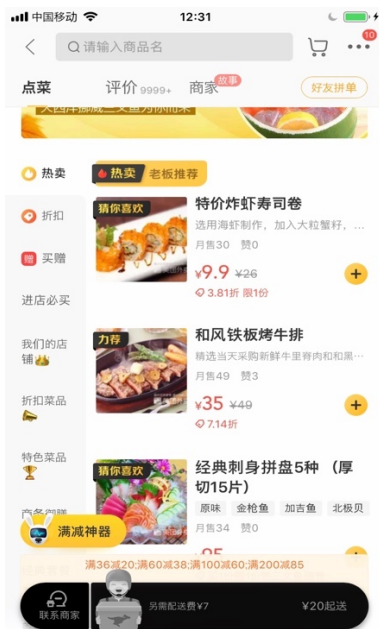
消費者側は割引を上手に利用して購入したいものの、お店側はそんな心理を

利用して「割引を利用したほうがむしろ高い値段になってしまう」なんていう罠を仕掛けてくることがある。まず1つ目を紹介する。割引を上手に利用する上で知っておかなければならない大事なこととして、「割引商品（つまり初めから割引されている商品）と满减割引は併用できない」ということである。もしある商品 A（割引されていない商品）を選んで满减割引が適用されて、その上さらに割引商品 B（初めから割引されている商品）を選んでしまうと、满减割引がキャンセルされ、ある商品 A と割引商品 B の値段になってしまう。つまり割引商品が满减割引より優先されるのである。满减割引を利用したい場合は割引商品を買わないでおこう。ちなみに满减割引を適用させないことはできない。しかし、お店側はこの事実を知らないうぶで天真爛漫な客を騙すためにあえてとびっきり安い割引商品を置いてそれを買わせようとし、結果的に高い値段を払わせようとするのである。以下の写真が良い例である。



これはミルクティーに追加できるトッピングだが、「安っ！」と思って選んでしまうと、满减割引がキャンセルされて結果的に合計額が高くなってしまふ。またこの写真の例が表しているように、あえて安い値段で買えるトッピングの料金を割引にすることによって、飲み物の料金の上にトッピングの料金を継ぎ足して满减割引が適用される値段に届かせようとする客に、满减割引を使わせないという陰謀もあるのである。

もう1つ意地の悪いトラップがある。それは「割引商品の値段が、定価の上に满减割引の適用された値段よりも高い」というものである。これも具体例を見ていこう。



上から2つ目のステーキに注目してほしい。これは割引商品で、値段は35元で、定価は49元。定価の約3割引で一見とてもお得に見える。しかし、よ

く見ると画面の下に「満 36 減 20」と記載してある。よって定価の 49 元で買った場合、36 元を超えるので满减割引が適用され、 $49 - 20 = 29$ 元となるのである。そう、ここに大きな落とし穴がある。「3 割引じゃん！安っ！」と思って買ってしまおうと、定価で買うよりも損をしてしまう。ただ残念なことに、多くの場合、同じ商品が定価でも販売されているパターンはない。つまりどうしてもその商品を買いたい場合は、少しの損を覚悟してでもそれを買うしかないのだ。もちろん損をするのが悔しいなら他の商品を買ったり、違う店に行ってみたりすることもできる。

ここで覚えてほしいのは、割引商品だからといってすぐ買ってしまおうと損をすることがある、ということだ。

●会員登録

上手に外卖を利用するには会員登録は欠かせない。月に 6 回以上外卖を利用するなら必ず登録しておこう。登録手続きは簡単で料金もたったの月額 15 元。では会員登録するとどのような特典があるのか、1 つ 1 つ紹介していこう。

特典その一：総額 30 元分（1 枚 5 元 × 6 枚）の割引券が送られる。月に 6 回以上利用するという条件もこれが理由。登録料の 15 元を差

し引くと、ここですでに 15 元の得をする。

特典その二：割引券のグレードアップが可能。詳細は次の項目で解説。

特典その三：割引券の追加購入が可能。毎月最大で 46 枚追加購入できる。

頻繁に外卖を利用する者は追加購入するとさらにお得になる。



↑ 留学中の最も幸せだった瞬間

●割引券のグレードアップ

外卖において红包と呼ばれるものが割引券なのである。一回の買い物で 1 枚しか使えないがとてもお得なものである。この割引券は通常 1 枚 5 元の割引額だが、店によってはこの割引券の割引額を増やすことができる。

下の写真が割引券をグレードアップすることができるお店の一覧である。店

によっては割引額を倍にすることもできることがわかるだろう。



この割引券のグレードアップシステムは多くの店で採り入れられている。外
売を利用する際はグレードアップできるかどうかチェックしておこう！

6.蚊の正しい殺し方

お待たせしました。いよいよ今回の報告書のクライマックスを迎えました。
さて、ここからは口調をやや変えてお話ししていきます。皆さんは中国の留学
生活における最大の敵はなんだと思いますか？中国語の能力？周りとの人間関
係？孤独？いいえ、蚊です。我々人類が長きにわたって対峙し、苦しみ続けた
最恐の敵、蚊。ここ中国でも猛威を振るっています。中国ではその数が尋常で
はありません。人が多い国だと思っていたら、蚊も多い。また通常夏から現れ

始める蚊ですが、ここ北京では4月になると現れ始め、部屋中をブンブン飛び回ります。よって早めに蚊除けを用意しましょう。もちろん蚊取り器があればいいのですが、それすらものともしない蚊にはどのように対処すればいいのでしょうか。

そうです。やるしかありません。しかし、中国の蚊はそう簡単に殺せません。動きがすばしっこくてなかなかしぶといです。また下手に殺したら後片付けが大変になります。というわけで蚊を確実に殺せる有効な技をいくつか紹介いたします。

●最強の必殺技集

1. **スマッシュ**：壁などに張り付いている蚊を片手の手のひらでバシッと素早く叩く。

難易度 ★★☆☆☆

後片付けの大変さ ★★★★★☆

騒音度 ★★★★★☆

達成感 ★★★★★★

最も基本的な技で最も確実に蚊を殺せます。初心者ならまずこの技を試して

みましょう。遠くから叩きに行っても、蚊が気づいて逃げてしまいます。十分に慎重に近づいてから叩きましょう。簡単な技ですが、蚊が壁など、どこかに張り付いていることが大前提です。蚊が空中で飛び回っているときは、この技は使えません。

またお食事後の蚊はお腹いっぱい人間を血を溜めているので、そのような状態の蚊をスマッシュすると、壁にべっとり血がついてしまいます。中関新園（大学の寮）の壁は特に汚れやすいです。



↑その一例

壁が汚れた場合はウェットティッシュや濡れたタオルで拭き取りましょう。

さらに、この技にはもう1つ問題点があります。それは大きな音を立ててしまうことです。私は蚊を殺すことに執着していた時期、部屋中でバンバンスマッシュをし、ルームメイトにたくさん迷惑をかけてしまいました。（すまん。）

2. **クラップ**：空中で飛んでいる蚊を両手で叩く。

難易度 ★★★★★☆

後片付けの大変さ ★☆☆☆☆

騒音度 ★★★★★☆

達成感 ★★★★★★

スマッシュなら蚊が壁などに張り付いていることが前提ですが、蚊が空中で飛んでいる場合はこの技が最も簡単で確実です。俊敏な蚊を空中で捕らえるため、相当な**動体視力**が必要です。私も初めの頃は飛び回る蚊をうまく捕らえられませんでした。蚊を殺していくうちに徐々に動体視力が向上し、うまくクラップできるようになりました。

またたいていの場合手のひらの中で蚊が死んでいる（たまに地面に落ちる）ので、後片付けが簡単です。ティッシュに包んで捨てましょう。ただスマッシュと同様に問題なのが大きな音を立てることです。

3. **グラブ**：空中で飛んでいる蚊を片手で素早く掴んで握りつぶす。

難易度 ★★★★★★

後片付けの大変さ ☆☆☆☆☆

騒音度 ☆☆☆☆☆

達成感 ★★★★★

上級者向けの技。飛び回る蚊を片手で掴むため、最も難しい技となります。そしてクラップよりもさらに高い動体視力が必要とされます。蚊は手のひらの中で死ぬため後片付けしやすいですが、この技の最大の利点は**全く音を立てないことと片手で行える**ことです。ルームメイトに迷惑をかけることもなく、片手が塞がっている場合でもできます。また技が決まったときはかなりカッコいいです。飛び回る蚊をサッと掴み、死んだ蚊を見つめながらドヤ顔すれば意中の異性も必ず落ちるでしょう。中国人にモテたい、カッコいい一面を見せたいという方はこの技を試されてはいかががでしょう。

ただ1つ問題なのが、たまに、握りつぶしたと思っていた蚊が実はうまく握りつぶせてなくて生きていて、手を開いた瞬間にどこかに飛んでいってしまうことです。この事態を避けるために蚊を掴んだらよく握りつぶしましょう。

●スランプに陥った場合

みなさん、自分を刺しまくった蚊を必死になって部屋中探しても見つからずイライラしたり落ち込んだり、そのようなスランプに陥ることって良くありま

すよね？僕もありました。部屋の中をブンブン飛ぶ蚊を血眼になって探すもまったく見つけれない時が良くありました。見つけれない自分の実力のなさにひどく落ち込みました。しかしそんな時、僕の心を救ってくれたのは他でもなくルームメイトでした。「そんなに必死になって探してどうするの？虫さんは自ら現れるものよ。(日本語訳)」と優しく語りかけてきました。ハッとしました。そうだ。自分から必死になって探しても見つかるものではない。まずはじっくり待ち、敵が油断したその隙に裁きの鉄槌を下す、この**徳川家康精神**の大切さを知りました。単に蚊殺しだけではなく、人生だってそうではないでしょうか。押してダメなら引いてみる、そして不意に現れるチャンスを決して見逃さない。ルームメイトが僕に与えてくれた助言は、人生を生きる上での大切な教訓となりました。

7.語学の勉強

この半年間の留学において最も力を入れたのが語学の勉強である。中国語は留学前からすでに相当の能力を持っていたため、特に事前の勉強はしなかった。留学中はできる限り中国語に触れる機会を増やそうと思って、空きコマがあればどこかの授業に潜って講義を聞いてみたり、休みの日は積極的にサークル活動に参加して中国人学生とコミュニケーションを取りました。

英語に関しては苦手であったが、「苦手から逃げたくない」という思いからなんとか頑張って英語の授業を一つ取った。もちろんその英語の授業では相当大変な思いをした。休み時間になると周りが英語を使って雑談を始め、僕はそれについて行けなかったので一人で席に座ってずっと黙々と英単語を覚えていた。また上記のように夏休みには AFPLA に参加した。この活動では英語を使って議論するが、僕は参加が決まった 4 ヶ月前から AFPLA に向けた勉強を始め、学期が終わったあとの 6 月後半と 7 月は大半の時間を英語の勉強に割けた。特に 7 月の後半には自分で応募した予備校の英語クラスに 15 日間通って勉強した。

そして中国語と英語では自分の単語帳を作っていた。自分が学習中に会った知らない単語を全て書き込んだ。英語に関しては AFPLA に向けた勉強もあったためかなり力を入れていて半年経つ頃には一冊を完成させていた。中国語については自分に対する要求が英語よりも厳しく、自分に知らない単語があることを許さなかったので、授業中のみならず日常生活の場面で知らない単語や聞いたことない単語に出会えばすぐに意味を調べて単語帳に書き込んでいた。語彙力を高めるのにこの学習法はかなり役に立った。

中国語と英語の他にも 1 年次から第二外国語として学んでいたスペイン語や、2 年次から授業を通して学んでいた韓国語は、留学中も独学を通じてひた

すら勉強した。

韓国語の勉強においてはある友人の存在が大きかった。その人の名前は소영 (ソヨン) で、韓国人の女の子である。その人と出会ったのは先ほど話した高級汉语口语の授業においてで、二人とも中国語が上手かったので中国語で会話をした。そして僕が韓国語を勉強していて彼女が日本語を勉強していたということで意気投合し、それから毎週一度二人で会って韓国語と日本語を教え合うという勉強会を開いた。これが韓国語の勉強に大いに役立った。独学ではできない会話の練習ができ、韓国語を勉強する上での様々な質問をすることもできた。一人ではモチベーションを保つことが難しかったが、定期的に勉強会を開いたことでモチベーションをうまく保てた。夏休みに入ってから、彼女は韓国に帰ってしまったのでそれからはテレビ電話を通じて韓国語と日本語の教え合いをしている。

現在学んでいる4ヶ国語の中で最も自信があるのは中国語であるが、中国語を勉強する上で一つ大きな発見があった。それは、スピーキングはやはり難しいということだ。いくら中国語に自信があっても自分の伝えたいことを言葉にして伝えるのがいかに難しいのかを痛感した。中国語で話すということは、まず自分の伝えたいことに当てはまる適切な中国語の単語やフレーズを見つけ出し、それからそれらを論理立て、さらにわかりやすく端的にする努力を加え

る、というプロセスである。読んでわかる、聞いてわかる、でもいざ話すとなると適切な言葉が出てこないなんてことがよくあるのである。もちろんスピーキングが難しいのは他の言語にも当てはまることだ。中国人と会話していると、よくあるのが、適切な言葉が出てこず、よく考えずに無難な単語やフレーズを選んであたふたした結果、自分でもよくわからない中国語を話してしまうのである。こういったときに「自分って中国語まだまだ下手だな～」と思うのである。

それでもやはり、語学を学ぶのは楽しい。単語をコツコツ覚えるという地道で単調な作業もあるが、大きなやりがいを見出せる。文章が読めたとき、外国人が話している言葉が辛うじてわかったとき、自分の言いたいことが通じたとき、そんなときに一番の喜びを感じる。自分の言いたいことを上手く言葉にできないとき、いくら覚えても知らない単語が出てくるとき、外国人とのコミュニケーションに積極的に参加できないとき、そんなときに一番の挫折を感じる。その喜びと挫折の繰り返しが語学の勉強に大きなやりがいをもたらす。中国語、英語、スペイン語、韓国語、僕はそのどれもまだまだ下手である。日本語だって怪しい。しかしそれでも語学が好き。だからこれからも語学の勉強に邁進していきたいと思う。

8.旅行

チベットに行った。

9. 特筆

この度の留学において多くの方々にお世話になった。EALAI事務局の事務員と先生方、留学手続きや留学生活で相談役になっていただいた方々、北京大学で出会った友人たち、共に東大からキャンパスアジアを通じて北京大学へ留学した友人たち、留学生生活を陰でずっと支えてくれた家族、その他多くの方々に深く感謝している。よってここで改めて心から感謝を申し上げる。

●EALAI事務局の渡辺さんとその他の事務員、王先生とその他の先生方へ

留学前の手続きで大変お世話になりました。メールの返信が度々遅れたり、報告書の提出も大幅に遅れたりして、いつもご迷惑をおかけして申し訳ありません。来学期もお世話になりますので、これからもよろしくお願い致します。

王先生には留学中いつも気にかけていただき、留学中に起こった留学手続きに関するトラブルにも助けていただきました。ありがとうございました。来学期もお世話になります。

●共に留学していた友人 藪本器くんへ

そもそもこの留学プログラムはやぶに紹介してもらった。その他にも留学手続きや留学開始後の生活でのいろいろな質問に答えてくれてありがとう。ゴールデンウィークにはチベットに連れてって来てくれてありがとう。本当に楽しい思い出ができた。これからもよろしく。

●今学期のルームメイト 大宮凱くんへ

いろいろな面で迷惑をかけてしまったこんな僕だけど、半年間生活を共にしてくれてありがとう。途中からエアコンのリモコンを独占しちゃってごめん！台湾に行っても時々連絡を取り合おう。

10.最後に

この半年間の留学で僕が学んだことはあまりにも多い。すべてのことを書ききれないのが残念だ。この半年間はだらけてしまったり、不真面目になってしまったときもある。そのような不甲斐ないときもあったけど、この半年間を振り返ると本当に楽しかった。そして留学して本当に良かった。この半年間の反省も踏まえて、次の半年間はより一層頑張っていきたい。

